

認知や発達の特性を活かした授業改善

伊那市立東部中学校では、令和5年度より長野県教育委員会が指定する「学びの改革パイオニア校」として、生徒の認知や発達の特性をアセスメントにより見える化し、授業の改善に挑戦しています。

具体的には、「子どもたちが作成した学び方トリセツ」を参考に、「全ての生徒を包み込む授業」の実現に取り組んでいます。

SPACEが提供するアセスメントは、ある基準や測定可能な範囲でのみ判定されたり診断されるためではありません。

自分自身の状態を把握し、自らをよりよい状態へ調整できるようになるためです。

例えば、「あきっぽい」という特徴は、ひとつのことを続けるべきという環境では評価されませんが、スピーディーに様々な分野を横断するべき環境であれば、よい評価に転じることもあります。



生徒の感想より

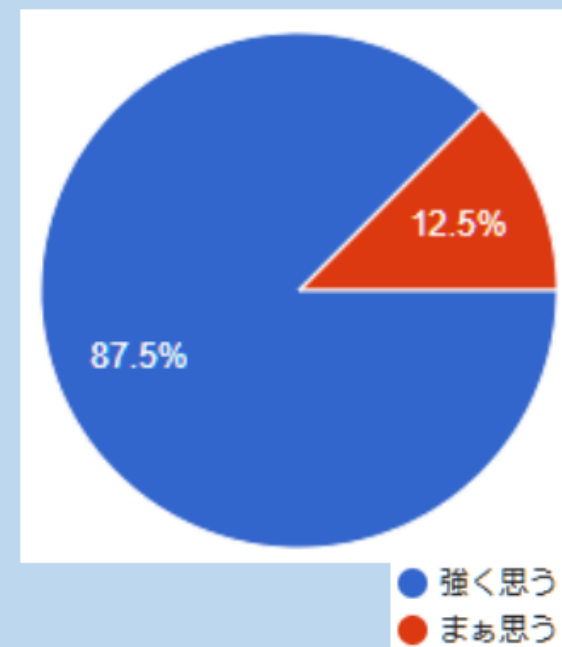
・SPACE-Q（アセスメントツール）をやりました。たくさんの質問がありました。自分にあう考え方や教科、やり方をこの質問を通して知ることができました。一人一人違って、結果が目に見えるところがいいなと思いました。このSPACEQで出た結果をもとに自分に合った学習を考えていきたいです。

先生たちが感じ始めていること

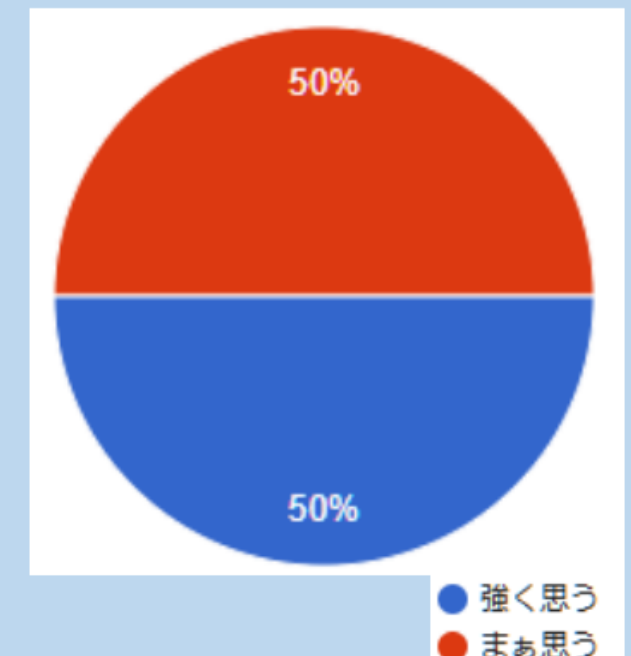
・子どもたちが情報をインプットする際、「視覚優位」「聴覚優位」「感覚優位」とそれぞれ特徴があるのに、話して説明することが多かった気がする。きっと視覚や感覚優位な生徒（合わせて80%強）は黙って座っているものの、「わかりにくいなあ」って思いながら授業を受けていた可能性があるから、できることから対応したい。

公開授業に参加いただいた先生方より

□ アセスメントはこれからの学びに必要なだと思いますか



□ このアセスメントは授業改善に役立つと思いますか



伊那市立東部中学校 令和6年度の歩み

4、5月 認知発達特性や アセスメント の研修

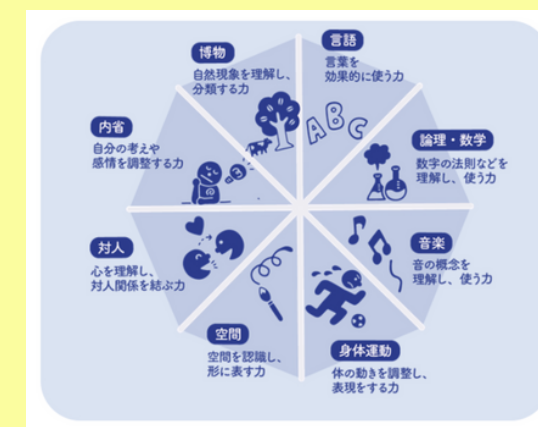
SPACEの村田さん、平野さんをお招きし、子どもたちのもつ「個才」について研修。
実際にSPACE-Qというアセスメントツールを先生方が使用し、自分自身の特性を分析、理解し、自分のもつ特性について、教員同士で意見交換を行なった。



研修した先生方が子どもたちと一緒にアセスメントを実施。
教員と子どもたちがアセスメントをオープンマインドで共有し、自分の特性を「プラス」イメージに変化させていく。

6月 アセスメント ツールSPACE-Q 実施

7月 学び方トリセツ の作成



自分のアセスメント結果を参考に、自分の特徴がどうすれば発揮できるのか？自分にはどんな学び方が合っているのか？を考え、2学期に向けて、自分の「学び方トリセツ」を作成。



・子どもたちが学びやすい授業
・子どもたちが主役になる授業
・誰一人取り残されない授業
を目指し、単元や題材のまとまりの中で、つけたい資質・能力を明らかにしながら、教科会、学級の担当者会を充実させながら、授業改善を進めていく。

8月～3月 授業にいかす

